



212号 発行所/ 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/ 病院長 林 弘人 印刷/(株) アートネクスト

関門医療センター

Speed Standard&Safety Smile



# 最近の網膜疾患治療戦略

網膜は神経細胞が敷きつめられた薄い膜で、物を見るために重要な役割を果たしています。黄斑は、網膜の中で視細胞が密集した最も感度の高い場所です。細かいものを見るためには再生能力が乏しく、網膜疾患は進行すると元に戻せないことが多いです。生涯にわたって良い視力を保つためには、黄斑部疾患を早期に発見し治療することが大切です。

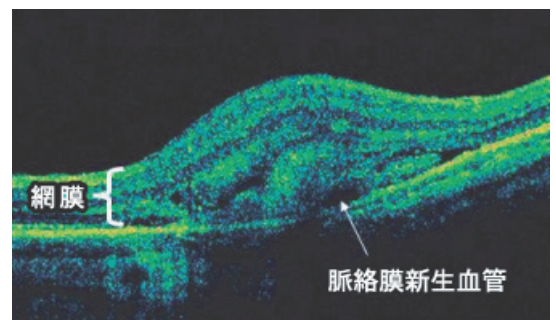


図1 © Japanese Ophthalmological Society

早期発見に欠かせない検査機器が、光干渉断層計です(図1)。網膜の断面を短時間で検査でき、造影剤を使わず患者さんに負担が少なく、頻回に検査ができます。網膜やその下の新生血管などの状態を立体的に把握することができます。

黄斑部が障害される網膜疾患には、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症などがあります。これらの疾患は新生血管や浮腫が発症し、視力が低下します。新生血管、黄斑浮腫の発症には血管内皮増殖因子が関係しています。血管内皮増殖因子を阻害する薬剤を眼内に注射することによって、網膜の新生血管の増殖や成長を抑え、黄斑浮腫を軽減することができ、視力を改善することができます。

眼科の治療薬としては点眼薬や内服薬が一般的ですが、点眼では網膜内への効果は乏しく、内服では全身的な副作用が懸念される場合には、抗血管内皮増殖因子薬のように眼内に直接薬剤を投与する硝子体注射を施行します(図2)。硝子体注射前には点眼麻酔をするので痛みは軽微です。最も重篤な合併症として眼内炎(0.05%)があり、当センターでは注射前後に抗生剤点眼をして頂き、手術室で十分消毒した後、

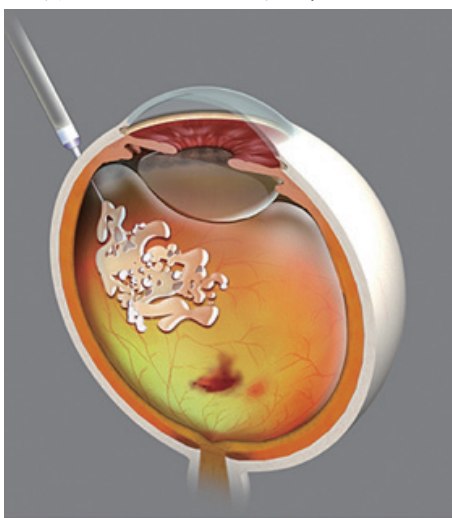


図2 © Japanese Ophthalmological Society

早期発見と安全な治療計画のご提供

## お仕事紹介



視能訓練士  
やました えいろう  
山下 栄太郎 (平成29年度採用)

視能訓練士

Q 具体的にどんな仕事をしていますか?

当センターでの視能訓練士の業務は、視力・眼圧・屈折・光干渉断層撮影・視野・斜視・弱視・色覚などの検査や眼鏡処方、視能訓練などです。

一般的には医師の指示の下、眼に障害がある人に対して回復のための矯正訓練を行い、正常な視機能へと導いたり、保有している機能を有効に使えるように訓練します。

Q なぜこの職業を選んだのですか?

高校3年生の時に父が入院したのをきっかけに視能訓練士を知りました。初めは何の仕事をしているか良く分かりませんでした。調べているうちに興味を持ち目指すようになりました。



Q 今の仕事をするためにどのような知識が必要ですか?

取得するには、大学もしくは専門学校を卒業後に国家試験に合格する必要があります。視能訓練士の国家試験を受けるには高校卒業後に4年生大学か養成専門学校で3年以上学ぶのが一般的ですが、他にも大学や短大もしくは看護師や保育士の養成機関で指定科目を履修したのち、指定の視能訓練士養成施設で

1年以上必要な知識や技術を取得する方法があります。

Q 仕事に就いてからのキャリア形成について

今後は、視覚に障害があるため生活に何らかの支障をきたしている人に対してのロービジョンケアを行っていききたいので、情報収集をしたり、学会や研修会に参加して視覚補助具や福祉などを学んでいきたいと思っています。



### 寄贈の御礼

令和2年7月に下関東ロータリークラブ様より消毒液ノータッチ式ディスペンサーと設置台をご寄贈賜りました。また同月、下関市の5つのロータリークラブ様から当センターを含めた市内の5医療機関にフェイスシールド計4,800個の寄贈を賜りました。

医療現場の現状をご理解いただき、職員一同深く感謝しております。新型コロナウイルス感染拡大防止に活用させていただきます。



〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号  
国立病院機構 関門医療センター  
診療受付時間：午前8:30~11:30  
午後(各診療科外来にお問い合わせください)

※休診日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29~1/3) ※臨時休診は各外来窓口に表示

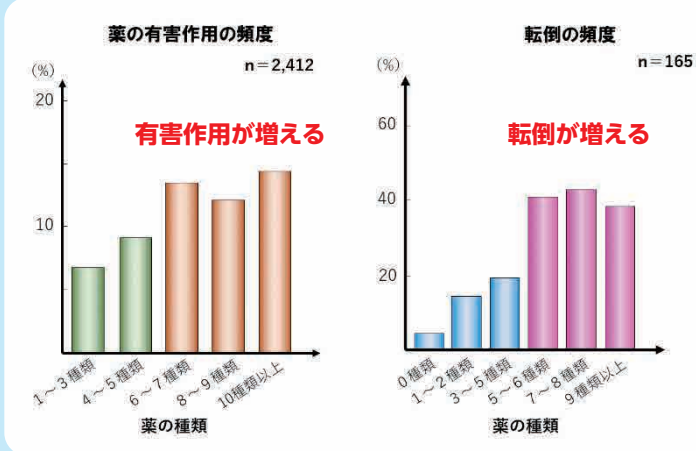
★地域連携室の直通 TEL 083-241-1191  
FAX 083-241-1302  
★代表 TEL 083-241-1199  
FAX 083-241-1301  
★透析センター TEL 083-241-1308  
FAX 083-241-1308  
https://kanmon.hosp.go.jp/





旅行先でもしもの時：旅先で具合が悪くなつてしまい、普段通っている医療機関とは別の医療機関へ救急受診した時、災害時、常に携帯すれば、初めての医療機関であっても、医師・歯科医師・薬剤師に今あなたが利用している薬の情報を伝えることができます。災害時

薬の重複を防ぐためにも、すべての薬剤を同じお薬手帳に記載していくことが大事ですが、服用している薬の種類が増えすぎると、望ましいことではありません。厚生労働省の統計によると2014年の調査では75歳以上の高齢者では5種類以上の薬剤を服用されている患者さんは、全体の70%近くになります。多過ぎる薬の使用は「ポリファーマシー」と呼ばれており、特に高齢の方では薬による有害作用の発生頻度が増えたり（下図棒グラフ左）、転倒を起こす頻度が増えます（下図棒グラフ右）。



# 「知っておきたい薬の話」

●おくすり手帳  
お薬手帳を「存じですか？お薬手帳とは、患者さんの薬の服用の履歴や、これまでにかかった病気（既往）や、お薬のアレルギーに関する情報など、特にお薬による治療を受ける上で重要な情報を医療関係者（医師・歯科医師・薬剤師）に伝えるための手帳です。複数の医療機関を利用されている患者さんはお薬手帳を数冊持つのではなく、是非飲み合わせのチェックのためにも1冊のお薬手帳にまとめていただきたいと思います。

●ポリファーマシー  
薬の重複を防ぐためにも、すべての薬剤を同じお薬手帳に記載していくことが大事ですが、服用している薬の種類が増えすぎると、望ましいことではありません。厚生労働省の統計によると2014年の調査では75歳以上の高齢者では5種類以上の薬剤を服用されている患者さんは、全体の70%近くになります。多過ぎる薬の使用は「ポリファーマシー」と呼ばれており、特に高齢の方では薬による有害作用の発生頻度が増えたり（下図棒グラフ左）、転倒を起こす頻度が増えます（下図棒グラフ右）。

には、手持ちの薬をもつて避難すること難しく、避難生活がつづく場合、いつも服用している薬剤が自分によって適正かどうか見極めるためにも、自分の「かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師」を決めていただき、薬について相談できる薬剤師さんを決めていただければ幸いです。お薬手帳を活用して、ご自身のお薬の記録を作成し、「不要な薬、中止できる薬はないだろうか？」と相談してみてください。



薬剤部 副薬剤部長  
たけやま ともゆき  
竹山 知志

# ビーンズ訪問看護ステーション設立から3年目を迎えて

ビーンズ訪問看護ステーションは、平成29年4月の立ち上げから今年で3年目を迎えました。3年目という節目に私は訪問看護ステーションの管理者となり3ヶ月が経ちました。日々、訪問看護スタッフ4名と共に利用者の方々へ看護ケアを提供しています。利用者さんの人数も増えており、これもひとえに診療部の先生方、看護部、地域連携室スタッフ、コメディカルスタッフ等の協力のお陰であると深く感謝致しております。



訪問看護ステーション 管理者  
なかしま みつ  
中島 美恵

私自身も訪問看護に実際に携わり、多くの利用者さんやご家族との出会いがあり、学ぶことが沢山ありました。訪問看護は住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるよう生活の場へ訪問することで、看護ケアを提供し自立への援助を促し、療養生活を支援しなければなりません。そのためには、その人の生き方（意思・権利）を尊重すること、利用者さんを知ることの必要性を改めて実感しました。このため、入院早期から退院後の生活を見越した退院支援や、最期をどこで迎えたいかなど、病棟看護師との協力が重要です。訪問看護でのサービスは、療養上のお世話・症状観察・医師の指示による医療処置・医療機器管理・リハビリ・認知症ケア・床ずれ予防や処置・ターミナルケアご家族への介護支援や相談・介護予防と多岐に

私たちは訪問看護師の方ではないかと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいになります。ビーンズ訪問看護ステーションの理念である、「まめな気配り、心配り、笑顔の一步を共に目指します」「思いを大切に自分らしい暮らしが続けることができるように専門的知識・技術を研鑽し療養生活を支えます」に則り、訪問看護スタッフは今後も病院と地域の皆様の架け橋となっていきたいと思ひます。

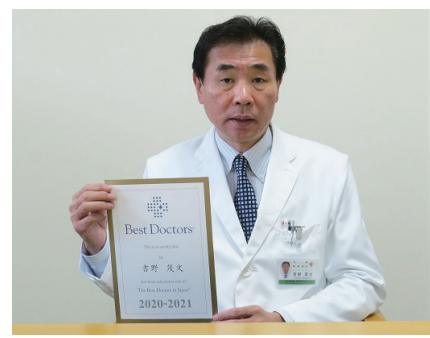
# ～ Best Doctors in Japan 2020-2021に選出されて～

外科医長  
よしの 茂文  
いげふみ  
吉野 茂文

この度、僭越ながらBest Doctors in Japanに選出されました。この選出はハーバード大学の医師により1989年に創業した米国ベストドクターズ社（日本代理店 法研）によって行われるもので、日本では2002年から開始され2年おきの調査により見直されその選出が決定します。私は2010年から6回ほど連続して「胃癌」の分野で選出して戴いております。具体的な調査方法ですが、前回の調査でベストドクターになった医師に調査書が送られ、同じ専門または関連分野の他の医師について「先生自身または家族の治療を自分以外の誰に委ねるか」という観点から推薦・評価を依頼し、その集計からその年度のベストドクターが決定します。

この調査方法は、世論調査で米大統領選挙の予想等を行っているギャラップ社が認めた手法であり、「真に良いもの」を選出するための優れた調査方法であるようです。雑誌などによくある「ランキング」や「手術件数」などの自己申告をベースにしたものではなく、医師同士によるピアレビューで、しかも前回のベストドクターによる推薦であり、その分野の真の専門家により認められなければ選出されません。全国全分野で数千人の医師がベストドクターに選ばれているようですが、残念ながら公表はされていません。ただ患者さんがベストドクターズ社に問い合わせをした場合に、ニーズに合った医師を紹介してくれるようです。

このように公表もされないベストドクターですが、日本の真の専門家に認めていただいたという事を真摯に受け止め、さらなる自身の診療の向上に努めていきたいと思ひます。



# 日本医療機能評価機構の認定を更新

【 一般病院2 第3世代Ver.2.0 】  
公的財団法人「日本医療機能評価機構」とは、国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人です。地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院として認定されました。

